

令和5年度 シラバス

教科名 数学

愛媛県立宇和高等学校

# 数学 I

愛媛県立宇和高等学校

教 科	数 学	単位数	2		対象	生物工学科1年
使用教科書	新 高校の数学I (数研出版)	副教材等			履修	<input checked="" type="checkbox"/> 必修・選択
授業の概要		到達目標			履修の条件・進路	
中学までの内容を復習しながら、基礎的な問題を繰り返し演習していく。家庭学習を大切にし、基礎的な内容をしっかり理解する。		反復練習を繰り返すことにより、学習内容について理解し、基礎的な知識を身に付けさせる。			進学希望者・就職希望者の両方に対応。	
学 習 の 年 間 計 画	月	単 元 名	学 習 内 容			メ モ
	一 学 期	第1章 数と式 第1節 数と式の計算	1. 計算の基本 3. 多項式の加法と減法 5. 展開の公式 7. 展開, 因数分解の工夫 9. 実数	2. 単項式と多項式 4. 多項式の乗法 6. 因数分解 8. 根号を含む式の計算		
	二 学 期	第2節 1次不等式  第2章 2次関数 第1節 2次関数のグラフ	1. 1次方程式 3. 不等式の解	2. 不等式		
	三 学 期	第2節 2次関数の値の変化  第3章 図形と計量 第1節 三角比	2次関数の最大値, 最小値  1. 直角三角形 4. 三角比の相互関係	2. 三角比 3. 三角比の利用 5. 鈍角の三角比		
学 習 方 法	<p><b>【授業】</b> 毎時間の授業を大切にし、集中して取り組む。先生の説明を聞き逃さない。</p> <p><b>【復習】</b> 板書ノートを利用し、その日のうちに内容を確認する。与えられた課題は、先生や友人に質問するなどして必ずこなす。</p> <p><b>【予習】</b> 教科書の次の内容を必ず読んでおくこと。</p>					
評 価 の 観 点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学習内容における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解するとともに、事象を数式化したり、数学的に解釈したり数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>各学習内容において、数学を活用して事象を論理的に考察し、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察でき、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現している。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>各学習内容において、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性がみられる。</li> </ul>	
評 価 方 法	※上記の3つの観点を基に、各学期ごとに評価する。		1学期	2学期	3学期	年度末
			(評価方法) 定期考査、課題テスト、小テスト、ノートなどによる到達目標の達成度や提出物、授業態度などを参考に、上記の3つの観点から総合的に評価する。			1・2・3学期の平均
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)						

# 数学 I

愛媛県立宇和高等学校

教 科	数 学	単位数	2		対 象	生物工学科2年
使用教科書	新 高校の数学 I (数研出版)	副教材等			履修	<input checked="" type="checkbox"/> 必修・選択
授業の概要		到達目標			履修の条件・進路	
演習を中心にして理解を深める。各自、家庭学習で問題を解いておかないと理解は半減する。		各学習内容について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。			・進学希望者・就職希望者の両方に対応。	
学年間の計画	月	単 元 名	学 習 内 容			メ モ
	一	第3章 図形と計量 第2節 三角形への応用	1. 正弦定理 3. 三角形の面積	2. 余弦定理		
	二	第4章 集合と命題	1. 集合 3. 必要条件と十分条件	2. 命題と集合		
	三	第5章 データの分析 演習	1. データの整理 3. データの散らばり  第1章 数と式 第2章 2次関数	2. データの代表値 4. データの相関		
三	演習	第3章 図形と計量 第4章 集合と命題 第5章 データの分析				
学習方法	<p><b>【授業】</b> 毎時間の授業を大切に、集中して取り組み、先生の説明を聞き逃さない。</p> <p><b>【復習】</b> 板書ノートを利用し、その日のうちに内容を確認する。与えられた課題は、先生や友人に質問するなどして必ずこなす。</p> <p><b>【予習】</b> 教科書の次の内容を必ず読んでおくこと。</p>					
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学習内容における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>各学習内容において、数学を活用して事象を論理的に考察し、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察でき、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現している。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>各学習内容において、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性がみられる。</li> </ul>	
評価方法	※上記の3つの観点を基に、各学期ごとに評価する。		1学期	2学期	3学期	年度末
			(評価方法) 定期考査、課題テスト、小テスト、ノートなどによる到達目標の達成度や提出物、授業態度などを参考に、上記の3つの観点から総合的に評価する。			1・2・3学期の平均
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)						

実践数学

愛媛県立宇和高等学校

教 科	数 学	単位数	3		対 象	生物工学科 3 年
使用教科書	自作教材	副教材等			履修	必履修・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択
授業の概要		到達目標		履修の条件・進路		
私立大学・短大・専門学校の入試問題や就職問題を利用して、演習で理解を深める。各自、家庭学習で問題を解いておかないと理解は半減する。		各学習内容について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学 I を履修しておく。</li> <li>・進学希望者・就職希望者の両方に対応。</li> </ul>		
学 習 の 年 間 計 画	月	単 元 名	学 習 内 容			メ モ
	一 学 期	一般常識数学	比と歩合 (割合 濃度算 仕事算 水槽算 金銭計算 流水算) 数と式の計算 (通過算) 1 次方程式と 1 次関数 (鶴亀算 年齢算 速さ・時間・距離 旅人算) 図形 (面積 体積 展開図 折り紙) その他 S P I 頻出問題			
	二 学 期	一般常識数学	2 次方程式と 2 次関数 不等式 三角比 指数関数と対数関数 微分と積分 場合の数と確率 順列・組合せ 確率 数列			
	三 学 期	一般常識数学	一般的な思考問題 総合問題 公務員試験対策			
学 習 方 法	<p>【授業】板書内容をノートに写すだけに終わらない。集中して授業に取り組み、先生の説明を聞き逃さない。</p> <p>【復習】板書ノートを利用して授業で学習した内容をその日のうちに解き直し、分からない箇所等を確認する。 与えられた課題は、先生や友人に質問するなどしてでも必ずこなす。</p> <p>【予習】次回の演習問題を考えておく。できれば、参考書等を参考にして解いてみるのが良い。</p>					
評 価 の 観 点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能		知識・理解	
	・数学的活動を通して、各学習内容の考え方や体系に関心をもつとともに数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に進んで活用しようとする。	・数学的活動を通して、各学習内容における数学的な見方や考えを身に付け、事象を数学的に捉え論理的に考えるとともに、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。	・各学習内容において、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、よりよく問題を解決する。		・各学習内容における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。	
評 価 方 法	※上記の4つの観点を基に、各学期ごとに評価する。		1 学期	2 学期	3 学期	年度末
			(評価方法) 定期考査、課題テスト、小テスト、演習ノートなどによる到達目標の達成度や提出物、授業態度などを参考に、上記の4つの観点から総合的に評価する。			1・2・3 学期の平均
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)						

## 数学 I ・ A

愛媛県立宇和高等学校

教 科	数 学	単位数	3・2		対 象	普通科1年
使用教科書	新編 数学 I (数研) 新編 数学 A (数研)	副教材等	テーマ数学 I + A (数研)		履修	<input checked="" type="checkbox"/> 必修・選択
授業の概要		到達目標			履修の条件・進路	
基本的な計算の積み重ねをはじめ、定理・公式を理解し、問題演習によってその利用方法を確認する。		数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培う。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校の内容を確認しておく。</li> <li>・多くの進路に必要とされる基本科目である。</li> <li>・共通テストにおける数学の1選択科目。</li> </ul>	
学 習 の 年 間 計 画	月	単 元 名	学 習 内 容			メ モ
	一 学 期	数学 I 第1章 数と式  第2章 集合と命題 数学 A 第1章 場合の数と確率 第2章 図形の性質	第1節 式の計算  第3節 1次不等式	第2節 実数		
	二 学 期	数学 I 第3章 2次関数  第4章 図形と計量 数学 A 第2章 図形の性質	第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次関数の値の変化 第3節 2次方程式と2次不等式	第1節 三角比 第2節 三角形への応用	第1節 平面図形 第2節 空間図形	
	三 学 期	数学 I 第4章 図形と計量 第5章 データの分析 数学 A 第3章 数学と人間の活動 数学 I ・ A の復習	第1節 三角比 第2節 三角形への応用			
学習方法	<p><b>【授業】</b> 板書内容をノートに写すだけに終わらない。集中して自ら積極的に授業に取り組む。</p> <p><b>【復習】</b> 板書ノートや教科書を利用して、授業で学習した内容をその日のうちに解き直す。また、問題集を利用して、問題ひねる。さらに、応用問題にも挑戦する。</p> <p><b>【予習】</b> 次の授業内容を例題を参考にして確認し、練習問題も解いて疑問点を明らかにしておく。</p>					
評 価 の 観 点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学習内容における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学習内容において、数学を活用して事象を論理的に考察し、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察でき、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現している。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学習内容において、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性がみられる。</li> </ul>	
評 価 方 法	※上記の3つの観点を基に、各学期ごとに評価する。		1 学期	2 学期	3 学期	年度末
			(評価方法) 定期考査、課題テスト、小テスト、ノートなどによる到達目標の達成度や提出物、授業態度などを参考に、上記の3つの観点から総合的に評価する。			1・2・3 学期の平均
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)						

## 実践数学 A

愛媛県立宇和高等学校

教 科	数 学	単位数	2		対 象	普通科2年 I 型
使用教科書	自作教材	副教材等	編 織 Study-Up ノート 数I A (編)		履修	必履修・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択
授業の概要		到達目標			履修の条件・進路	
基本的な定理・公式の考え方を理解し、例題を通して利用方法を確認するとともに、問題演習で理解を深める。必ず予習しておき、授業に集中すること。		各学習内容について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。			数学 I を履修しておく。進学希望者・就職希望者の両方に対応。	
学 習 の 二 年 間 計 画	月	単 元 名	学 習 内 容			メ モ
	一	第1章 数と式	第1節 数と式 第2節 1次不等式 第3節 集合と命題			
	二	第2章 2次関数 第3章 図形と計量	第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次方程式と2次不等式 第1節 三角比 第2節 正弦定理・余弦定理			
	三	第4章 データの分析 数学 I の総復習	データの整理 データの代表値 データの散らばりと四分位数 分散と標準偏差 データの相関			
学習方法	<p>【授業】毎時間の授業を大切に、集中して取り組む。先生の説明を聞き逃さない。</p> <p>【復習】板書ノートを利用し、その日のうちに内容を確認する。与えられた課題は、先生や友人に質問するなどして必ずこなす。</p> <p>【予習】教科書の次の内容を必ず読んでおくこと。</p>					
評 価 の 観 点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学習内容における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>各学習内容において、数学を活用して事象を論理的に考察し、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察でき、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現している。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>各学習内容において、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性がみられる。</li> </ul>	
評 価 方 法	※上記の3つの観点を基に、学期ごとに評価する。		1 学期	2 学期	3 学期	年度末
			(評価方法) 定期考査、課題テスト、小テスト、演習ノートなどによる到達目標の達成度や提出物、授業態度などを参考に、上記の3つの観点から総合的に評価する。			1・2・3学期の平均
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)						

数学Ⅱ

愛媛県立宇和高等学校

教 科	数 学	単位数	2		対象	普通科2年 I 型
使用教科書	新数学Ⅱ (東京書籍)	副教材等			履修	必履修・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択
授業の概要		到達目標			履修の条件・進路	
基本的な内容を中心に理解を深める。 家庭学習で予習・復習をしておくこと によって、内容の定着を図る。		各学習内容について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。			・進学希望者に対応。	
学 習 期 間 計 画	月	単 元 名	学 習 内 容			メ モ
	一	第1章 方程式・式と証明	1節 整式・分数式の計算 2節 2次方程式 3節 高次方程式 4節 式と証明			
	二	第2章 図形と方程式	1節 座標と直線の方程式 2節 円の方程式 3節 不等式の表す領域			
	三	第3章 三角関数	1節 三角関数 2節 加法定理			
学習方法	【授業】毎時間の授業を大切にし、集中して取り組む。先生の説明を聞き逃さない。 【復習】板書ノートを利用し、その日のうちに内容を確認する。与えられた課題は、先生や友人に質問するなどして必ずこなす。 【予習】教科書の次の内容を必ず読んでおくこと。					
評 価 の 観 点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・各学習内容における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。		・各学習内容において、数学を活用して事象を論理的に考察し、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察でき、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現している。		・各学習内容において、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性がみられる。	
評 価 方 法	※上記の3つの観点を基に、学期ごとに評価する。		1学期	2学期	3学期	年度末
			(評価方法) 定期考査、課題テスト、小テスト、演習ノートなどによる到達目標の達成度や提出物、授業態度などを参考に、上記の3つの観点から総合的に評価する。			1・2・3学期の平均
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)						

数学Ⅱ・B

愛媛県立宇和高等学校

教 科	数 学	単位数	4・2		対 象	普通科2年Ⅱ型
使用教科書	新編 数学Ⅱ (数研) 新編 数学B (数研)	副教材等	テーマ数学Ⅱ+B (数研)		履修	必履修・ <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">選択</span>
授業の概要		到達目標			履修の条件・進路	
定理・公式の説明からその考え方を理解し、例題を通して利用方法を確認するとともに、問題演習で理解を深める。予習しておき、授業に集中しておかないと進度について行けない。		各学習内容について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学Ⅰを履修しておく。</li> <li>・センター試験における数学の選択科目の一つ。理科系に進学する生徒は受験科目として必要大。</li> </ul>	
学 習 の 年 間 計 画	月	単 元 名	学 習 内 容			メ モ
	一 学 期	数学Ⅱ 第1章 式と証明 第2章 複素数と方程式 第3章 図形と方程式 数学B 第1章 平面上のベクトル	第1節 式と計算 第1節 複素数と2次方程式の解 第1節 点と直線 第1節 ベクトルとその演算	第2節 等式・不等式の証明 第2節 高次方程式 第2節 円 第2節 ベクトルと平面図形	第3節 軌跡と領域 第3節	
	二 学 期	数学Ⅱ 第4章 三角関数 第5章 指数関数と対数関数 数学B 第2章 空間のベクトル	第1節 三角関数 第1節 指数関数	第2節 加法定理 第2節 対数関数	空間の点 空間のベクトル ベクトルの成分・内積 ベクトルの図形への応用 座標空間における図形	
	三 学 期	数学Ⅱ 第6章 微分と積分 数学B 第3章 数列	第1節 微分係数と導関数 第3節 積分法 第1節 等差数列と等比数列 第3節 漸化式と数学的帰納法	第2節 関数の値の変化 第2節 いろいろな数列		
学習方法	<p>【授業】板書内容をノートに写すだけに終わらない。集中して自ら積極的に授業に取り組む。</p> <p>【復習】板書ノートや教科書を利用して、授業で学習した内容をその日のうちに解き直す。また、問題集を利用して、問題になれる。さらに、応用問題にも挑戦する。</p> <p>【予習】次回の授業内容を例題を参考にして確認し、練習問題も解いて疑問点を明らかにしておく。</p>					
評 価 の 観 点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学習内容における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学習内容において、数学を活用して事象を論理的に考察し、事象の本質や他の事象との関係を認識し統一的・発展的に考察でき、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現している。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学習内容において、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性がみられる。</li> </ul>	
評 価 方 法	※上記の3つの観点を基に、各学期ごとに評価する。		1 学期	2 学期	3 学期	年度末
			(評価方法) 定期考査、課題テスト、小テスト、ノートなどによる到達目標の達成度や提出物、授業態度などを参考に、上記の3つの観点から総合的に評価する。			1・2・3学期の平均
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)						



実践数学 A

愛媛県立宇和高等学校

教科	数学	単位数	2	対象	普通科3年I型	
使用教科書	自作教材	副教材等	数学就職問題集(高教研)	履修	必修・ <input type="checkbox"/> 選択	
授業の概要		到達目標		履修の条件・進路		
私立大学・短大・専門学校の入試問題や就職問題を利用して、演習で理解を深める。		各学習内容について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学Iを履修しておく。</li> <li>・進学希望者・就職希望者の両方に対応。</li> </ul>		
学習 の 計 画	月	単 元 名	学 習 内 容			メ モ
	一 学 期	数学I・A・II・Bに関する総合問題	1 方程式と不等式 式の計算 実数 1次不等式と2次方程式 2 2次関数 2次関数とグラフ 2次不等式 3 図形と計量 三角比 正弦定理と余弦定理 図形の計量			
	二 学 期	数学I・A・II・Bに関する総合問題	1 場合の数と確率 集合とその要素の個数 場合の数 確率 2 論理と集合 命題と条件 逆・裏・対偶 3 平面図形 三角形の性質 円の性質			
	三 学 期	数学I・A・II・Bに関する総合問題	1 式と計算 等式・不等式の証明 2 複素数と方程式の解 高次方程式 3 点と直線 円 軌跡と領域 4 三角関数 加法定理 指数関数 対数関数 5 微分係数と導関数 関数の値の変化 積分法			
学習方法	<p>【授業】板書内容をノートに写すだけに終わらない。集中して授業に取り組み、先生の説明を聞き逃さない。</p> <p>【復習】板書ノートを利用して授業で学習した内容をその日のうちに解き直し、分からない箇所等を確認する。 与えられた課題は、先生や友人に質問するなどしてでも必ずこなす。</p> <p>【予習】次回の演習問題の例題について考えておく。できれば、参考書等を参考にして解いてみるのが良い。</p>					
評価の観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能		知識・理解	
	・数学的活動を通して、各学習内容の考え方や体系に関心をもつとともに数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に進んで活用しようとする。	・数学的活動を通して、各学習内容における数学的な見方や考えを身に付け、事象を数学的に捉え論理的に考えるとともに、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。	・各学習内容において、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、よりよく問題を解決する。		・各学習内容における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。	
評価方法	※上記の4つの観点を基に、各学期ごとに評価する。	1学期	2学期	3学期	年度末	
		(評価方法) 定期考査、課題テスト、小テスト、演習ノートなどによる到達目標の達成度や提出物、授業態度などを参考に、上記の4つの観点から総合的に評価する。			1・2・3学期の平均	
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)						

数学Ⅱ

愛媛県立宇和高等学校

教 科	数 学	単位数	2		対象	普通科 3 年 I 型	
使用教科書	改訂 新数学Ⅱ (東京書籍)	副教材等				履修	必履修・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択
授業の概要		到達目標			履修の条件・進路		
基本的な内容を中心に理解を深める。家庭学習で予習・復習をしておくことによって、内容の定着を図る。		各学習内容について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。			・進学希望者に対応。		
学 習 の 年 間 計 画	月	単 元 名	学 習 内 容				メ モ
	一	第 4 章 指数関数と対数関数	1 節 指数関数 2 節 対数関数				
	二	第 5 章 微分と積分	1 節 微分係数と導関数 2 節 導関数の応用 3 節 積分				
	三	演習					
学 習 方 法	<p><b>【授業】</b> 毎時間の授業を大切にし、集中して取り組む。先生の説明を聞き逃さない。</p> <p><b>【復習】</b> 板書ノートを利用し、その日のうちに内容を確認する。与えられた課題は、先生や友人に質問するなどして必ずこなす。</p> <p><b>【予習】</b> 教科書の次の内容を必ず読んでおくこと。</p>						
評 価 の 観 点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能		知識・理解		
	・各学習内容の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	・事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	・各学習内容において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。		・各学習内容における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。		
評 価 方 法	※上記の4つの観点を基に、各学期ごとに評価する。		1 学期	2 学期	3 学期	年度末	
			(評価方法) 定期考査、課題テスト、小テスト、演習ノートなどによる到達目標の達成度や提出物、授業態度などを参考に、上記の4つの観点から総合的に評価する。			1・2・3学期の平均	
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)							

## 実践数学B

愛媛県立宇和高等学校

教 科	数 学	単位数	5		対象	普通科3年Ⅱ型文系	
使用教科書	自作教材	副教材等	共通テスト対策 数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 基礎徹底演習 共通テスト対策 重要問題演習		履修	必修修・ <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">選択</span>	
授業の概要		到達目標			履修の条件・進路		
大学入学共通テストを目標に、基礎的な内容から、応用力を身につけさせる授業を展開する。問題演習を中心にした授業を行う。		各学習内容について理解を深め、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てるとともに、大学入学共通テストに対応できる力を身につけさせる。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修しておく。</li> <li>・ 大学受験で大学入学共通テストに数学が必要な生徒に適している。</li> </ul>		
学年計画	月	単 元 名	学 習 内 容				メモ
	一	数学Ⅰ・Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 整式、式の値</li> <li>・ 場合の数と確率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2次関数</li> <li>・ 集合論理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三角比と図形</li> <li>・ 式と証明</li> </ul>		
	二	数学Ⅲ・Ⅳ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図形と方程式</li> <li>・ 微分・積分</li> <li>・ 大学入学共通テスト問題演習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三角関数</li> <li>・ ベクトル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指数・対数関数</li> <li>・ 数列</li> </ul>		
	三	総合演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合演習</li> </ul>				
学習方法	<p><b>【授業】</b> 板書内容をノートに写すだけに終わらない。集中して授業に取り組み、先生の説明を聞き逃さない。</p> <p><b>【復習】</b> 板書ノートや問題集等を利用して授業で学習した内容をその日のうちに解き直し、分からない箇所等を確認する。与えられた課題は、先生や友人に質問するなどしてでも必ずこなす。</p> <p><b>【予習】</b> 次回の授業内容の問題を必ず解いて 授業にのぞむこと。</p>						
評価の観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能		知識・理解		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数学的活動を通して、各学習内容の考え方や体系に関心をもつとともに数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に進んで活用しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数学的活動を通して、各学習内容における数学的な見方や考えを身に付け、事象を数学的に捉え論理的に考えるとともに、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各学習内容において、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、よりよく問題を解決する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各学習内容における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。</li> </ul>		
評価方法	※上記の4つの観点を基に、各学期ごとに評価する。		1学期	2学期	3学期	年度末	
			(評価方法) 定期考査、課題テスト、小テスト、ノートなどによる到達目標の達成度や提出物、授業態度などを参考に、上記の4つの観点から総合的に評価する。			1・2・3学期の平均	
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)							

## 数学Ⅲ

愛媛県立宇和高等学校

教 科	数 学	単位数	6		対象	普通科3年Ⅱ型理系
使用教科書	改訂版 新編 数学Ⅲ	副教材等	テーマ数学Ⅲ (数研)		履修	必履修・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">選択</span>
授業の概要		到達目標			履修の条件・進路	
定理・公式の説明からその考え方を理解し、応用問題を解くことで、その利用方法を確認する。家庭学習において予習復習すること。		各学習内容について理解し、応用的な知識の習得と技能の習熟を図る。事象を数学的に考察し、処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。			・数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bの内容を確認しておく。 ・原則として理科系に進学する生徒は受験科目として必要大。	
学 習 期 間 計 画	月	単 元 名	学 習 内 容			メ モ
	一	第1章 複素数平面				
	二	第2章 式と曲線	第1節 2次曲線	第2節 媒介変数表示と極座標		
	三	第3章 関数				
四	第4章 極限	第1節 数列の極限				
五	第5章 微分法	第2節 関数の極限				
六	第6章 微分法の実用	第1節 導関数	第2節 いろいろな関数の導関数			
七	第7章 積分法とその応用	第1節 導関数の応用	第2節 いろいろな応用			
八	第8章 積分法とその応用	第1節 不定積分	第2節 定積分	第3節 積分法の応用		
九	演習問題	総合問題				
学 習 方 法	【授業】板書内容をノートに写すだけに終わらない。集中して自ら積極的に授業に取り組む。 【復習】板書ノートや教科書を利用して、授業で学習した内容をその日の内に解き直す。また、応用問題を解くことで、問題になれ、理解を深める。 【予習】次回の授業内容を例題を利用して確認しておく。できれば、練習問題も解いてみる。					
評 価 の 観 点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能		知識・理解	
	・数学的活動を通して、各学習内容の考え方や体系に関心をもつとともに数学的な見方や考え方の良さを認識し、それらを事象の考察に進んで活用しようとする。	・数学的活動を通して、各学習内容における数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的に捉え論理的に考えるとともに、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。	・各学習内容において、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、よりよく問題を解決する。		・各学習内容における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。	
評 価 方 法	※上記の4つの観点を基に、各学期ごとに評価する。		1 学期	2 学期	3 学期	年度末
			(評価方法) 定期考査、課題テスト、小テスト、ノートなどによる到達目標の達成度や提出物、授業態度などを参考に、上記の4つの観点から総合的に評価する。			1・2・3 学期の平均
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)						